

西教寺報

自是他非のおそろしき

岩崎 正衛（住職）

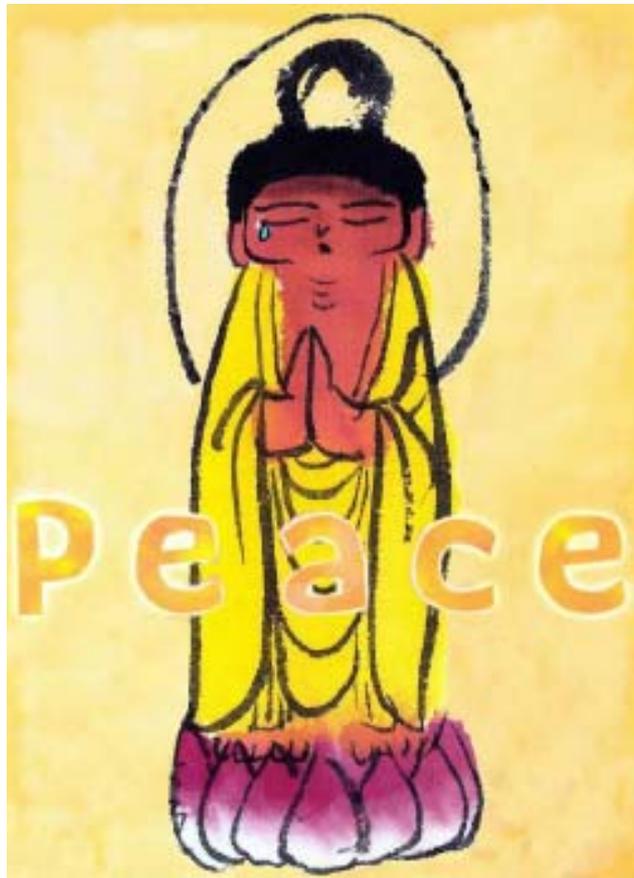
「孝に似て 楚の直躬は直ならず」という古川柳があります。昔、中国の楚の国の葉公が孔子さまに申しました。「私の国に直躬という者がおります。ある時彼の父親が隣家から迷い込んできた羊を攘んだのを見て、直躬は役人に訴えて出ました。私の国にはこういう直躬者がいるのです」と。そこで孔子さまは「仰言いました。わが魯の国の正直者は違ひます。子に過失があれば、父たる者はこれを隠蔽してやり、父に過失があればこれを子が隠蔽するよ」としてあります。父子が相隠すのは人情の至りで、正直の道がおのずかその中にあるのです。云々、こいつ古川柳が人口に膾炙されていたほど、この話は古人の心を打ったのでしょね、国連の査察団が、イラクの科学者たちに「フセイン大統領の命令で大規模兵器や化学兵器を作ったかどうか」を聞き取り調査するといふコースがありました。私はすぐにこの直躬などの土事

を思い出しました。孔子さまはまさか親子で「ぬすみの悪事を隠しおせと仰言ったのではありませんまい。」「もうこいつには一度とすまいぞ」と親子でおだやかに話

し合ひて心のすまじきことをめとせよとられたのではないてはどうか。一方イラクの科学者の場合はむづかしいですね、もし実際に係わっていたらどうすれ

ばよいのでしょつか、フセインさんと科学者を親子にたとえて、子供である科学者が、親父の不行跡を正直に言うべきかどうか、査察団へは「フセインさんはそいつ危

険な兵器作ってはいませんよ」とワンをついておいて「フセインさんへは、早く大量破壊兵器を破壊しなさい」とコンソリ忠告するのが、孔子流の行き方でしょうか？しかし、もしフセインさんが正直に科学者のいうことを聞いて大量破壊兵器を廃棄すれば問題はありませんが、バレなかつたことをよいことに保ちていていざという時にそれを使用したとしたら大変なことです。孔子さまは、人間の性は善であると信じていられますから、人間は話し合えば必ず良い方へ向かふとお考えのようですが、仏教的に言えば、人間の本性は「無自性」ですから、因縁次第で善



イラスト（あみださまPEACE）大阪浄願寺さん提供

第92号
 仏歴2546(2003・平成15)年
 4月16日発行
 呉中丸7-7-13
 西教寺蔵本通支坊
 TEL0823(21)2798
 FAX0823(21)2795
 郵便振替番号
 01340-3-29117

紙 面	
自是他非のおそろしき…岩崎正衛(住職)	1
佐々木一俊さんご往生…	2
ご正當報恩講団体参拝…	3
新役員 佐藤園江・堂本ミツコさん…	3
お礼 3	
敬悼録 4	
白骨 久保田利数 4	
続・手水鉢 4	
クロスワードパズル当選者…	5
いつしよにスキーに行きましよう…	5
花まつり…	5
春銭下口・放火魔…	5
こんなお葬式は…	6
十七回会の次は…	6
哲子の日記…岩崎哲子	7
西教寺法座と例会のご案内…	8

にでも悪くてもなる可能性を持つているのです。毎年々々世間を騒がせる国会議員の秘書の収賄事件にしても、お互いに隠し合いをしていきますから、百年河清を待たが如しであります。要するに「私は間違った悪いことをした」という自覚を本人が持つかどうかです。

ところで悪の自覚どころか、自己絶対視の親玉がブッシュさんではないでしょうか。三月十日、彼は遂にイラク侵攻を開始しました。ブッシュさんはこう言います。「私は毎日神に祈りをささげて私の進路を決めるから、私は自分の行動にいさぎの躊躇もない」のだそうです。何となく恐ろしい言葉でしょうが、自己絶対化の証明に神さまを持ち出すのですから、これほど不気味なことはありません。

パからパレスチナに七回にわたって攻め込んだ十字軍の残虐さを、私たちは学校で全く習いませんでしたが、アメリカの今度のイラク侵攻を、イスラム教シーア派の本山では「アメリカによる新十字軍だ」と定義したそうです。お釈迦さまは「言い争う人々を見よ、武器を持ったから恐れを生じたのである」と仰言いました。まさに



その通り、アメリカが大鼻破壊兵器を持っていけば、イラクもまたそれを持つていくのではないかと、疑心暗鬼になるのです。国連常任理事国であるアメリカ、イギリス、フランス、ロシア、中国の五ヶ国が占めて世界中の紛争地帯へ武器を輸出してい

ます。しかもその六割はアメリカだそうです。これがブラックアウトモアでなくてはなりません。アメリカがダンントツなので、どの角度から眺めてみても、アメリカの態度は大国のエゴそのものですが、自己を絶対視するブッシュさんはまるで分かっていないのです。

「煩惱をやめることとはできないが煩惱と知ることにはできる」のです。仏の教えを聞き、煩惱具足の自己に気づけば、我が足元に目が行き、自分のおろかさには驚くことになるのです。人間みな兎策、話せばわかる」と言われますが、なかなかそうは行きません。

福原さんこと

佐々木一俊さんへ往生



福原さん

去る三月十六日、元西教寺法務員、福原さんこと佐々木一俊さんが、八十一歳でお浄土へ帰られました（福原は旧姓）。

佐々木さんは、若くして前住職（釈俊雄）に弟子入りし、若い頃は仏教青年会や日曜学校で活躍されました。その後は、数十名もの会員で盛り上がった上山田や西谷お経会（上山田・

西谷・下山田・西原・伏見町一帯）などで、活発にご教化されました。元会員のの方に尋ねると、「楽しい会でした。最初は空井鶴松さん宅に集まっていたのですが、会員の家を持ち回りにして、新年宴会は青木勝登さん宅でやったり、色々なおしゃべり、情報交換の場として、とても楽しかったです。また、「お寺とのパイプ役と

して、お寺では聞けないことをざっくりばらんに教えてくれて、言いたいことを言い合える方でした。お酒を飲むとチャランポランなところもありましたが、皆が親しみを込めて「福原さん」と呼んだのは、心が温かかったからだと思います。いつだったか団体参拜で比叡山に登った時、あの大きなお腹で、三津田支坊地区のご門徒おばあさんを背負って登っておられました。その姿を見て、ああこの人はやさしい人なんだな、と私は思いました。」と教えてくださいました。長ノ木本坊では、彼岸会法座中に追悼法要が行われました。法名は釈一俊（院号は悟慚院）。

ご正当報恩講団体参拝

親鸞さまご往生の地・角坊(すみのほう)別院で



去る一月十一日、三十四名で本願寺のご正当(御正忌)報恩講に団体参拝しました。三月二十九日に放送されたNHK「本願寺永遠の美」に、一行が瞬間に映っていたそうです。皆さんご覧になりましたか？

山本 千鶴子さん

長年仏婦会長代理として活動され、また総代として率先してお聴聞されました。また十五年前の西教寺大修復にも色々ご報謝くださいました。

敬 悼 録

一六〇日	東鹿田町	厚井	政秋	八十一歳
一七〇日	三和町	水野	雅樹	七十一歳
一八〇日	山手一	橋本	節子	五十九歳
一九〇日	伏原二	伊勢田	久一	八十八歳
二〇〇日	西辰川二	細田	勝彦	七十八歳
二一〇日	西辰川四	山本	千鶴子	八十二歳
二二〇日	東中央一	厚井	一彦	七十八歳
二三〇日	安佐南区	山本	千鶴子	八十二歳
二四〇日	東愛宕区	長島	靖治	八十四歳
二五〇日	東愛宕区	森島	始明	八十四歳
二六〇日	長木町	越谷	光六	八十二歳
二七〇日	長木町	越谷	光六	八十二歳
二八〇日	長木町	越谷	光六	八十二歳

一月	向井 八重	八十七歳
二月	久保 峰子	六十七歳
三月	熊彦 雄二	六十六歳
四月	山根 彦二	六十八歳
五月	西片山町	六十七歳
六月	中央六	六十六歳
七月	西辰川一	六十八歳
八月	安芸区	六十九歳
九月	矢野東	六十八歳
十月	伊東市	六十八歳
十一月	富岡	六十八歳

三〇日	長ノ木町	中道	ヒナコ	百歳
三一日	本通三	田島	久代	九十六歳
三二日	晴海町	杉原	忠治	五十七歳
三三日	西愛宕町	徳永	至宏	七十七歳
三四日	西辰川二	山根	ミツ	八十五歳
三五日	東惣付町	清水	玉枝	八十二歳
三六日	西中央五	向井	ウメヨ	八十七歳
三七日	熊野町	佐々木	一俊	八十一歳
三八日	阿賀北五	荒谷	文字	八十七歳
三九日	平原町	松谷	トミ子	九十七歳
四〇日	平原町	(敬称略)	年齢は数え年	

廿三日	上山田町	青木	静枝	九十歳
廿四日	内神町	庄原	千重子	九十歳
廿五日	江原町	片山	世次	九十六歳
廿六日	内神町	清本	徳夫	九十五歳
廿七日	焼山北三	庄垣内	としえ	八十五歳
廿八日	西愛宕町	深栖	敏子	六十九歳

新役員



昨年七月十二日の西教寺仏教婦人会総会で、内田慶子さんに替わり、仏婦会長に佐藤園江さんが選出されました。また、長ノ木本坊副会長松垣松枝さんの退任に伴い、新任として堂本ミツコさんが会長より委嘱されました。前任の内田さん、松垣さんありがとうございました。また、佐藤さん、堂本さん、よろしくお願ひします。

編集者の思い違いにより、会長さんのご紹介が遅れましたこと、深くお詫びいたします。



堂本ミツコさん



佐藤園江さん

お 礼



ダナー
長ノ木本坊 五、三八二円
蔵本通支坊 三、一〇〇円
三津田支坊 三、一〇〇円
三津田支坊 一式 中島 緑丸
本堂蛍光灯 一式 中島 緑丸
寺報へ
岩本成昭(焼山宮ヶ迫)
八力キ
細田 久一(西惣付町)
甘茶
石田薬草店

白骨

久保田 利数

(選集抄より)。陸奥国平泉の郡 力ガ村に住んでいた頃、その近辺を散歩したが、誠に風景の佳き所であつた。河辺に高さ一丈余り(三メートル)の石塔が立つていた。板垣がはりめぐらしてあり、掃除もゆき届き立派なものであつた。いわれあるものと思ひ人に尋ねてみた。

いつかこの里に猛将あり。その娘、『法花経(法華経)』を読みたいと熱望したが教えるものなし。娘、朝夕泣き歎く。その様、ながく続いた。ある時、天井より声あり「汝、経を前に置け。我ここに居ておしえよう」と聞こえた。不思議だなと思ひながら経を前に置いて坐す。

天井の上から恐れ多い声で教えられた。八日で皆習ひ了。その折この娘、不思議なことよと天井を見つめてみると、白い舍利頭骨に、生きた人と同じ舌があり、この白骨が教えられたのかと思ひ驚き、あなたはどなたですかと、言葉鋭く尋ねると「我は延暦寺の昔の僧侶 慈恵大師の頭である。汝の熱心さに感じたので来て教えたのよ。また我を急ぎ坂芝山へ送れ」といわれたので、娘、かたじけないことと感謝し涙を流しながらこの山に納め、このように塔婆などを立てた。近頃まで山中に響きお経の音がきこえた。「この女は尼になつてこの山中に庵を結び住していたが、二十余年前

お問い合せの「利休作手水鉢」について、調べてみましたが、結局のところ、現存するか否かは、わかりませんでした。

本願寺と利休の関係についてですが、石山本願寺時代の利休は、信長の茶頭の一人となつていたようです。しかし、その頃の本願寺は、信長といわゆる石山戦争中ですので、直接交流があつたと考えるのは難しいです。また、この頃の利休は、今井宗久や津田宗及の次の席次にあつて、茶人としてはあまり高い評価は得ていなかったようです。

続・千利久の手水鉢

前号で、林述齋(寛政三博士の一人)著『述齋偶筆』に、「大阪城には、本願寺があつた頃より伝わる千利休作の手水鉢がある」という記述の真偽について、本願寺資料研究所に問い合わせましたが、先日回答がありました。気になって夜も眠れない方もいらつしやると思ひますので紹介いたします。

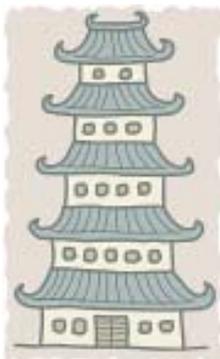
れている内容なので、林述齋が書いた頃にはすでに、こういう伝承に変わつていたのかも知れません。

いづれにしても、本願寺側の資料ではそういった手水鉢に関するものは現存していませんし、大阪城内に手水鉢

はそのまま残つており、見られるかといつので、その人に案内されて山の奥に入つてみるに長さ三間なる家が神さびて形許り残つて

いた。お経を教えてください。お経を教えてくださる人、もなきこの淋しき場所に住まわれない。だからこそ、慈恵大師の白骨があらわれ、授けられたのだらうと、かたじけなく思ひます。

さめてもそののみ願ひ歎いて、かたじけなく思ひます。中国の昔、貧しき男、経が読みたいが読めないと、言つて歎いていて、一人の見目良き女来て、妻となつて一部教へ終わつて後



ただ、「手水鉢があつたか否か」ということについては、史料上確認する事が出来ない今となつては、どちらとも言い切れません。ですから、「江戸時代後期には、石山本願寺に利休作と伝える手水鉢があつた」という伝承があつたが、現在は確認できないです。(以下省略)

観音と身をかえて姿見えなくなつたと書かれてある本を思い出し、繰り返して読みました。また昔にはこんな事例はあまたあつたようですが、世下りて現代ではなぜか耳にいたしません。

報恩講リーフレット・クロ
スワードバズル当選者
廣本文雄さん
超豪華賞品があたりました。賞品は何かつて？それはね……、ほっほっほ！



去る二月八日、「第四回初心者も子連れもOK・みんなであいっしょにスキーに行きましよう」に参加された勝田武彦・久美子ご夫妻。またいっしょにいきましようね！

数十年ぶりにパレードが復活

花まつり

去る四月五日、お釈迦さまのお誕生（四月八日）を祝う花まつりが催されました。



蔵本通支坊前を通るパレード

呉に仏教文化を、数年前より有志寺院により、クリスマスやバレンタインに負けじと行われています。今年は、参加寺院も十一ヶ寺と増え、参加者も、いつもより多い一五〇名を超える参加者（子ども一〇七名）でにぎわいました。ご協力くださったご門徒も増えました。

特に今年は、西方寺から蔵本通支坊まで、ソウを引張って行進しました。昔に比べると数百メートル短い距離ですが、花まつり行進曲に合わせて、太鼓などの楽器を鳴らしながら、にぎやかに行進しました。パレードが復活したのは数十年ぶりです。

また、蔵本通支坊では、

色とりどりの珠で作ったお念珠は世界中でたった一つ



おつとめ、ご法話、ゲームの後、各自でお念珠をつくりました。自分で好きな色の珠やヒモを選び、自分だけのお念珠をつくりました。

参加者は、花御堂で記念写真を撮ったり、甘茶（石田薬草店さん寄付）を飲んだりして楽しく過ごしました。

賽銭ドロ・放火魔

三月、呉中の神社仏閣を荒らしまわり、長ノ木本坊には毎週やってきていた賽銭ドロがつかまりました（つかまえてみると空き巣などもしている大ドロだったそうです）。

それと並行して墓地に二度、裏庫裏（住居部分）に一度放火があり、消防も来て大騒ぎになりました。周辺の皆さんにご迷惑をかけぬよう、さまざまな対策をとりました。が、そちらの犯人はまだつかまっています。みなさんも、どうぞご注意ください。



二度目のボヤ騒ぎの様子

こんなお葬式は

最近のお葬式は、沢山の方に知らせずに少人数で行うお葬式が増えたように思います。しかし一方では、故人や遺族の交友関係、社会的地位によるのでしょうか、大規模なお葬式もあり、大小両極化が進んでいるように感じます。

場所も、自宅・自治会館・お寺でお葬式をしてきましたが、最近には葬儀社の経営する会館やホールでのお葬式も増えてきました。
また、雑誌やテレビでは、生前葬とか、友人葬やお別れ式という宗教色をなくしたものが紹介されたり、お墓も、色んな形のものをつ造ったり、散骨等々、かなり多様化してきています。人間の死には、さまざまな側面がありますので、価値観の多様化に伴い、その人が大切にしたいことに



ちよつと紹介してみようと思います。

親しんだ仏さまと

よつて形も各々変わるのでしょう。従つて、一概にこれがいいというつもりはありませんが、先日お寺であつたお葬式を、仏教的視点から

Aさんの場合、故人の希望で、本堂でお内陣の巻き障子を開け、お寺の仏さまにお出まし願いました。今までは、

お内陣を開めて荘厳壇(俗にいつ祭壇)を組み、そこに小さな仏さまを御安置してお葬式をすることがほとんどであつたと思います。

自宅でお葬式をする時も、お仏壇を開けて荘厳壇でお葬式が主流のように思います。

調べてみると、昔は、野辺の送り、つまり葬式は屋外でしていた。臨時に仏さまを安置し、お供え物を置く段を設置したものが屋内へ持ち込まれたものだとわかっていきます。

式後、「お寺の仏さまの前でお葬式が出来るのなら、わたしもそうしたい」と大きな反響がありました。毎日手を合わせ、人生をともに歩ませていただいた仏さまの前でお葬式をしたいということだと思ひます。言われてみるともつともで、むしろ何故そうしなかつたのだらうと不思議に思うくらいです。希望される場合は、葬儀社にその旨を

十七回会の次は？

今年二月より、ようやく年回案内を始めることができました。

本願寺派の法式に従い、十七回会の次は二十五回会でご案内させていただきました。しかし呉近辺では、十七回会の後、二十三回会、二十七回会とつとめる習慣もあり、徹底しておりません。(その次は、いずれの場合も三十三回会・五十回会となります)。既に二十三回会をつとめた方も二十五回会をせよという意味ではありませんので、意のあるところをお汲み取りください

合掌

(住職)

お伝えください。

故人の写真

Aさんの場合、写真も大きな写真を飾らずに、生前のスナップ写真を自前の額に数枚入れて飾つてありました。テレビで見る芸能人の葬式などでは、大きな写真が上で、小さな仏さまがちよつと

と下にいらつしゃつたり、場合によっては大きな写真だけというのも見かけます。しかし逆に、多くはありませんが写真のないお葬式だってあります。先日ご往生された佐々木(福原)一俊さんの葬儀には、写真がありませんでした。ちなみに前任(釈俊雄)や前坊守の葬儀もそうでした。お葬式のはじめの帰敬式で

流転三界中恩愛不能断
棄恩入無為真実報恩者

といつい文を申します。意識すると、

「人間の愛情には限界がありません。悲しくつらいことですが、仏さま(の教え)を大切に生きてゆくならば、死別をも超えて、本当の意味で恩に報いるつもり夫婦・親子の縁を結ぶことができるのですよ」という意味です。

写真を置くことが問題なのではありませんが、仏さまを大切に仏事をいとむ、また仏さまを大切に生きる人生の深さやすばらしさをお伝えできればと思うことです。

莊嚴段

今回のお葬式は、たくさんのお花で飾られた莊嚴壇はなく、生花三対だけでした。

葬儀費用が気になるという方もいらっしゃると思いますので申しますと、先の意味では、仏さまを大切に「安置し、ちゃん

とお莊嚴(お花や灯明お供え物)がしてあれば、特に莊嚴段は必要ありません。仏教的にいうと、そんなにお金をかけなくても十分なお葬式ができることをお伝えしたいと思います。詳しくは、お寺にご相談ください。

誓子の日記

「私もデビュー」の巻

桜の季節も終わりが近づきました。我が家は、次男の学が幼稚園へ入園しました。子供たちの成長とともに、私も少しずつ成長しなければと思わされる日々です。

昨年は、長男の慧が小学校に入学しました。「やっと、少し手が離れてひと安心…」と思っていたら、とんでもありませんでした。目が届かないところが増えたことで、新たな悩みや不安が増し、かえって息子への言動

や行動が気になるようになりました。考えてみると、私自身も幼稚園そして小学校と、親として新しい社会にデビューしているのです。

余談ですが、「公園デビュー」という言葉があります。赤ちゃんをはじめ公園へ遊びに行くことを、雑誌や若い親たちの会話の中でそう言うのですが、私は「母親の「公園社(すでに公園へきているお母さんたちの中)へのデビュー」という意味もあるように思っています。

さて、小学生の親としてデビューした私ですが、子供を通して伝がってゆくいろいろな人の関わりの中で実感させられたことがあります。それは、人それぞれに、様々な考え方や価値観があって子供を育てているのだなあとということです。面白かったり、しんどかったり「ほんま、色んな人がいるわあ」といったところでしょうか。その色んな考え方や価値観の中で、いかにわが子を育ててい

くか、ちょっとしたことでも悩む日々が続きました。いろいろな人に相談したり本を読んだりするうち、他人に流されたりせず、自分自身が周りをしっかり見つめて、大事なことを選ぶと育てたいと思うようになりました。親から自立して行うこととする息子とそれを取り巻く様々な人や環境など、物事を見抜く「親の目」が問われているのだなあとということです。

似たようなことですが、テレビでは、一日中バクダツトの衛星軍中継が映されています。米英軍イラク軍双方の情報戦や、それをめぐって日本で様々に報道されますが、いったい何が真実なのか…。

見せられている映像は、ある意味リアルですが、なぜか非現実にも感じられるのです。たくさんの方の罪のない人々が亡くなっていることが真実のはずなのに、その悲惨さはあまり実

感できないのです。あるひとがブッシュ大統領の戦後の遊説を見て言っていました。「彼は犠牲者を最小限にしようと断言しているけれど、犠牲者の家族にとっては最大限の犠牲であることに間違いはない」と。

大人には、未来をになつ子どもを育てる責任があるといえます。未熟ですが私もその一員としてデビューしました。戦争だけでなく、学校という場など、社会の色々な場面で、私の物事の真実を見抜く目が問われているのだなあと思います。私は今からその心を養わなくてはなりません。とはいっても、まずは、育児で養いすぎた体の脂肪とおさらばしてから……。



天上天下唯我独尊

ながのきほんぼう
長ノ木本坊

〒737-0053
呉市長ノ木町16-10
TEL 0823-21-3714
FAX 0823-21-2991

EMAIL:mamocha@mb.info.web.ne.jp

くらもとどおりしぼう
蔵本通支坊

〒737-0051
呉市中央7-7-13
TEL 0823-21-2798
FAX 0823-21-2795

EMAIL:chinei63@enjoy.ne.jp
HP:http://www.ttec.co.jp/~chinei63

みつだしぼう
三津田支坊

〒737-0821
呉市三條4-13-7
TEL 0823-21-5895
FAX 0823-21-5895